

新水稻奨励品種「つや姫」の特性

白未熟粒の少ない極早生品種

研究開発の背景

- ◇近年和歌山県の水稲栽培面積の約半分を占める極早生品種「キヌヒカリ」で白未熟粒の発生が多発、検査等級を下げる主な原因となっている。
- ◇そこで、夏季の高温による白未熟粒の発生が少ない品種として、「つや姫」を選定し、2017年2月に和歌山県水稻奨励品種に採用された。

研究成果の内容

「キヌヒカリ」熟期で収量・品質・食味が優れる有望品種

- 出穂と成熟** 同熟期の「キヌヒカリ」と比べて出穂期、成熟期ともに2日程度遅い。
- 外観品質** 白未熟粒の発生が少なく、整粒率は70%程度と高い。
- 収量性** 「キヌヒカリ」と比べて収量は安定して高く、60kg/a程度である。
- 耐倒伏性** 「キヌヒカリ」と比べて稈長はやや短く、耐倒伏性は同程度である。



品種名	両親の組み合わせ	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m)	耐倒伏性	玄米収量 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	品質	白未熟粒					整粒率 (%)	採年次
											心白	乳白	基部未熟	背白	腹白		
つや姫	山形70号×東北164号	8.12	9.19	79.8	18.5	319	やや強	59.9	22.2	4.2	1.2	0.5	0.6	0.2	0.1	70.8	平成29年
キヌヒカリ	(収2800/北陸100号)F1×北陸96号	8.10	9.16	81.0	18.4	293	やや強	55.1	22.4	5.5	2.4	0.8	0.9	0.6	0.3	61.1	平成2年

注) データは農業試験場の奨励品種決定調査(2010~2016年)の平均値。移植期は6月16日。

対倒伏性:0(無)~5(甚)の6段階で評価

品質:1(上・上)~9(下・下)の9段階で評価

心白、乳白、基部未熟、背白、腹白の発生程度は、0(無)~5(甚)の6段階

整粒率(%)は精玄米を品質判定器ES1000(静岡製機)で測定したもの

産地の状況

○普及に向けて

H30年産米より県内全域で極早生品種の特別栽培品種として導入開始。

○栽培要件

和歌山県特別栽培農産物基準での栽培(節減対象農薬の使用回数、化学肥料の使用量を慣行の1/2)。現地での特別栽培の状況として、「キヌヒカリ」、「イクヒカリ」と比べ、収量は優れ、品質は同程度。

期待される効果

☆1等米比率の向上

☆特別栽培によるブランド米としての販売

和歌山県産米の評価アップ
販売単価の向上